シグマ光機株式会社

証券コード：7713

第47期 中間報告書

2021年6月1日 ▶ 2021年11月30日

Contents

株主の皆様へ
第2四半期業績（連結）
第2四半期のセグメント別概況（連結）
2022年5月期業績見通し（連結）
Topics
　製品開発ストーリー「コアユニット顕微鏡」
　新製品紹介　65mmピエゾアシストステージ
CSR活動
株主様アンケート結果のご報告
連結財務諸表
株式の状況／会社概要

Light Solutions for Life®

光なら、きっとできる。

OptoSigma®

株主の皆様へ

経営理念　我社は光産業を通じ、社会に貢献します。

社会に役立つ製品の提供により、皆様から喜ばれるものづくりを目指します。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当上半期は、売上高が前年同期比23.0％増の49億8千9百万円、経常利益は前年同期比84.6％増の8億2千4百万円となり、前年同期比で増収増益となりました。

世界経済は、各国でのワクチン接種の普及や経済活動の再開が進み、米国や中国の産業分野を中心に総じて回復基調で推移いたしました。しかしながら、感染力の強い新型コロナウイルスの変異株の出現や、半導体等の部材や一部原材料の供給不足等が見られており、景気の先行きは依然不透明な状況が続いております。

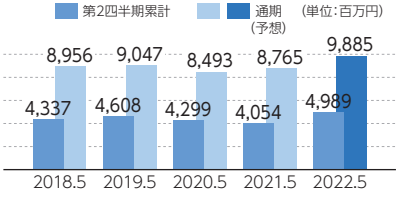
当社においては、最先端の事業分野に製品の安定供給を図るべく生産技術向上や生産効率化等に全力で取り組むとともに、オンラインの最大活用、グループ間の情報連携強化、新分野・新技術への展開等を積極的に推進することで、業容の拡大に努めております。

これらの施策により、企業価値の最大化の実現と安定的な株主還元に努めるとともに、環境・社会・ガバナンスへの取り組みを強化し、創立来掲げる経営理念のとおり、持続可能な社会への貢献に邁進する所存でございますので、株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

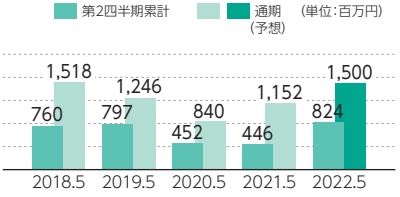
シグマ光機株式会社
代表取締役社長　近藤 洋介

第2四半期業績（連結）

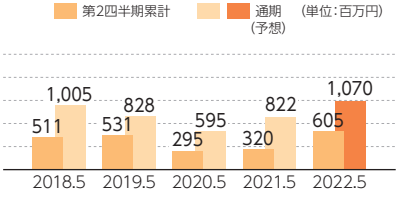
売上高 49億8千9百万円
（前年同期比 23.0％増）



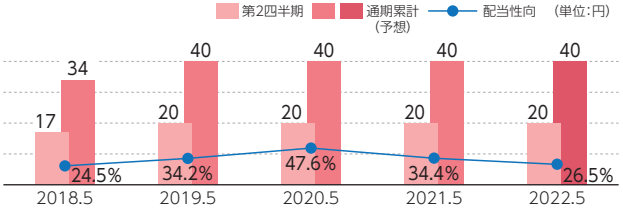
経常利益 8億2千4百万円
（前年同期比 84.6％増）



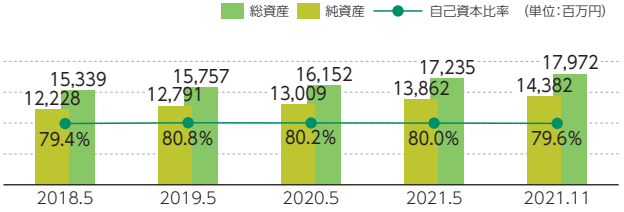
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益 6億5百万円
（前年同期比 88.8％増）



配当金、配当性向



総資産・純資産・自己資本比率

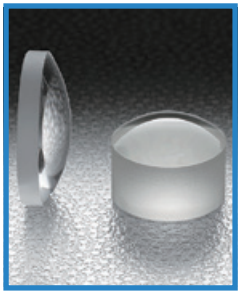


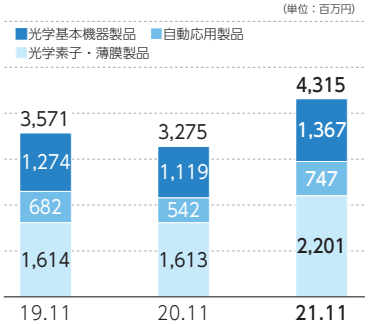
第2四半期のセグメント別概況（連結）

▶ 要素部品事業

売上高 ↑ **31.7 %増**

（前年同期比 10億3千9百万円増）





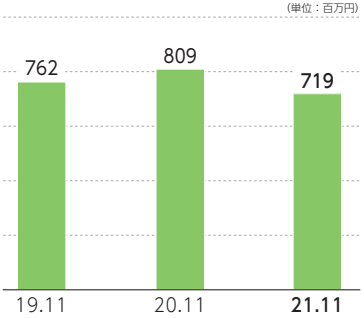
ポイント 電子部品･半導体業界向けの需要が好調

大学・官公庁向け及び産業分野向けともに堅調に推移いたしました。国内・アジア地域では、電子部品・半導体業界向けの光学素子・薄膜製品及び光学基本機器製品の需要が好調に推移し、バイオ業界向けの自動応用製品及び通信業界向けの光学要素部品の需要は堅調に推移いたしました。又、米国地域及び欧州地域の需要は堅調に推移いたしました。

▶ システム製品事業

売上高 ↓ **11.0 %減**

（前年同期比 8千9百万円減）



ポイント 部品調達難による当社製品出荷の長納期化

産業分野向けの需要は堅調に推移いたしましたが、半導体等の部材や一部原材料の供給不足等に起因した長納期化が進み、売上高が伸び悩みました。電子部品・半導体業界向けの光学ユニット製品の需要は堅調に推移し、フラットパネルディスプレイ業界向けの需要は弱含みで推移いたしました。又、防衛業界向け及び医療業界向けの需要は底堅く推移いたしました。

2022年5月期業績見通し（連結）

半導体業界等の産業分野を中心とした堅調な受注環境を背景に、光学要素部品の需要は引き続き堅調に推移すると予想され、通期業績予想を修正いたしました。新型コロナウイルスの変異株の出現、半導体等の部材や一部原材料の供給不足等の懸念材料もありますが、製品の安定供給、生産技術向上や生産効率化等に全力で取り組み、持続的成長を図ってまいります。第47期中間配当は1株当り20円とさせていただき、安定的な株主還元を行ってまいります。

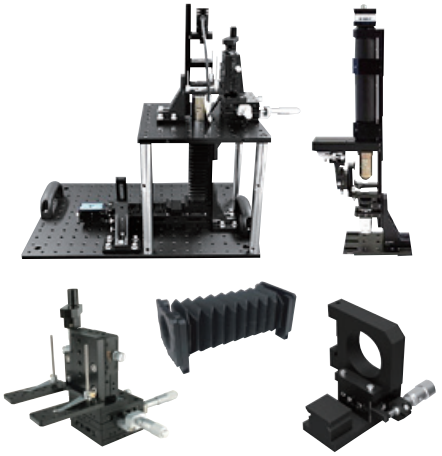
売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	配当額（通期累計）
9,885百万円	1,370百万円	1,500百万円	1,070百万円	40円
（前期比 12.8%増）	（前期比 39.3%増）	（前期比 30.1%増）	（前期比 30.1%増）	配当性向（見通し）26.5%

※2021年7月13日に公表いたしました2022年5月期通期の業績予想（連結・個別）を2022年1月12日付にて修正しております。詳細は、当社ホームページでご確認ください。

Topics　製品開発ストーリー「コアユニット顕微鏡」

研究者が本当に欲しい顕微鏡を実現したかった。

開発部 バイオチーム リーダー 井上裕一



コアユニット顕微鏡

新しいDo-It-Yourselfタイプの顕微鏡システムです。初心者向けから先端研究者向けまで対応しています。

製品の詳細な情報については、こちらもご高覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=dLUpQW0lLfc

Q｜本製品を作ったきっかけを教えてください。

A｜大学研究所で助教授を務めていた頃、教授の紹介で、シグマ光機の方と会う機会がありました。そこで、私が常々考えていた研究者が抱える顕微鏡の課題に共感していただきました。その縁があって私はシグマ光機に入社し、研究者が本当に求める顕微鏡の開発を始めました。

Q｜研究者が求める顕微鏡とは？既存製品の課題を教えてください。

A｜既存の顕微鏡では機能拡張に限界があり、観察目的によっては高価な顕微鏡を追加で買う必要がありました。「コアユニット顕微鏡」は構成部品をユニット化しており、目的に応じた顕微鏡の構築を低コストで実現しています。分解と組み立てが自由にできることで、持ち運びも容易となり、出張先での共同研究等にも活用できるようになりました。

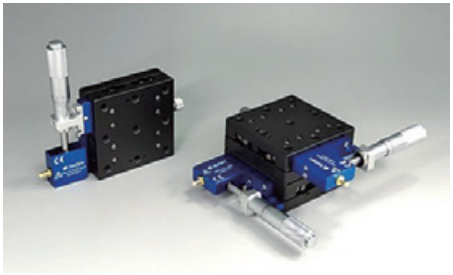
Q｜課題の解決に向けて、苦労したところを教えてください。

A｜組み立てやすさと観察精度の両立に苦労しました。生産・販売・開発部門の連携による試行錯誤を繰り返しながら改善を続け、両立が実現できました。チーム内でのアイデア出しから試作品を製作し、社内会議や展示会出展等を経て、様々な関係者からのフィードバックを反映して、「コアユニット顕微鏡」が誕生しました。

Q｜「コアユニット顕微鏡」の今後の展開を聞かせてください。

A｜構成部品のラインナップを増やしており、「コアユニット顕微鏡」の可能性を広げています。より高度な観察機能に対応した製品群等も開発していますので、ますます観察手法が多様化する先端研究や医療・バイオ分野等での「コアユニット顕微鏡」の活躍を期待してください。

Topics　新製品紹介　65mmピエゾアシストステージ



X軸、XY軸、Z軸が各2タイプと、それぞれの勝手違い（操作方向違い）があり、計8種類をラインナップしています。

高分解能での位置調整が必要な手動ステージユニットやシステムに最適です。

手動ステージ本体にピエゾアシスト機構を追加することで、20nm（ナノメートル）以下の微動調整を行うことができるステージです。これまで、テーブルサイズは□25mm、□40mm、□60mmのラインナップでしたが、今回新たに□65mmが追加されました。□65mmの大きな特徴は、ステージのストロークが±12.5mmのロングストロークになっていることです。さらに、取り付けのネジタイプをM6とインチネジ（1/4-20UNC）から選定いただけます。

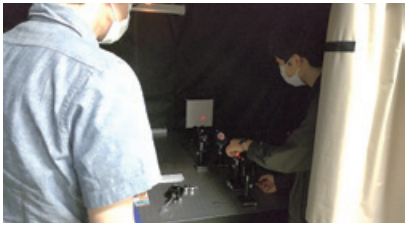
※ピエゾアシスト専用コントローラー（PASC）は別売りになります。

詳細はこちらもご高覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=yp9Dk7chc-s

CSR活動

先端レーザー科学教育研究コンソーシアム（CORAL）



CORALは、東京大学を中心として発足した大学院教育プログラムです。当社も、次世代の光科学分野を担う人材育成に貢献すべく、光産業をリードする先端企業の1社として発足当初から毎年参加しています。

働く女性サミット

当社は、女性活躍推進及び人材育成への取り組みとして、2016年から中堅女性従業員を対象とした社内研修「働く女性サミット」を継続して実施しています。

株主様アンケート結果のご報告

株主様アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

第46期報告書で実施したアンケートは、当社の全株主様4,839名（2021年5月31日時点）の約3%に相当する140名の株主様からご回答いただきました。皆様よりお寄せいただいたご意見・ご要望等は、今後の会社経営及びIR活動に活かしてまいります。

株主様からのご質問

Q コロナ禍の中での事業戦略を教えてください。

A 当社は、研究機関向けの他、半導体、FPD、医療・バイオ、通信、防衛等の幅広い産業分野向けに事業を展開しており、景気浮沈の中においても安定的に事業を推進しています。また、Web拡充・オンラインツール活用等の様々な工夫と改善により、対面活動の制限等といったコロナ禍の影響にも対応しています。引き続き付加価値の高い新技術・新製品の早期市場投入、生産技術向上と生産効率化、海外グループ会社と連携した世界市場への展開等を推進し、持続的な企業価値向上を図ってまいります。

Q 多様な人材の登用に関する方針を教えてください。

A 当社は、事業運営の効率性及び公平性等の観点から、ジェンダー及び国際性等といった属性別の管理職登用の具体的な目標は立てていませんが、持続的な企業価値向上のためにも、多様性を持った優秀な人材の登用・確保は重要な人事戦略の一つであると考えています。そのため、積極的な採用活動や社員教育、グループ会社間の人材交流等により多様性を持った人材プールの構築を進める他、全ての人材が働きやすい環境構築に向けて、社員エンゲージメントの向上、業務生産性の向上等にも取り組んでいます。

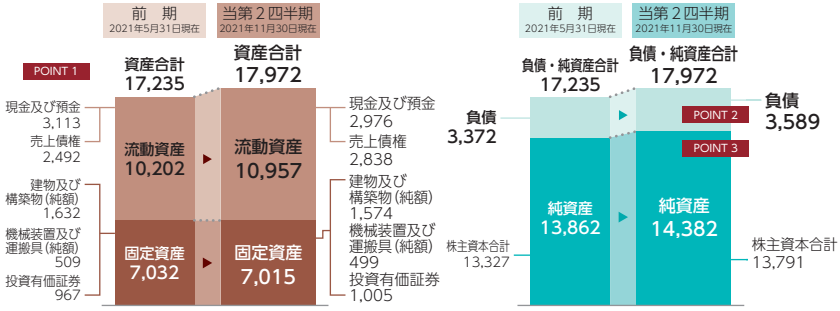
株主様からのご意見・ご要望のご紹介

- 独自の技術で新しい分野を開拓し、人類に貢献する企業として成長してください。
- 宇宙開発支援関連を応援しています。
- カーボンニュートラルに貢献する製品を開発してもらいたい。
- クマのキャラクターに親しみを感じます。

連結財務諸表

連結貸借対照表の概要

（単位：百万円）



POINT 1

資産の変動

流動資産は、有価証券、電子記録債権、受取手形及び売掛金がそれぞれ増加しましたが、現金及び預金、商品及び製品がそれぞれ減少したこと等により前期末比で7.4％の増加となりました。固定資産は、繰延税金資産が増加しましたが、建物及び構築物、投資不動産がそれぞれ減少したこと等により前期末比で0.2％減少しました。

POINT 2

負債の変動

流動負債は、短期借入金、支払手形及び買掛金がそれぞれ増加したこと等により前期末比で13.6％増加しました。固定負債は、長期借入金が減少したこと等により前期末比で6.6％減少しました。

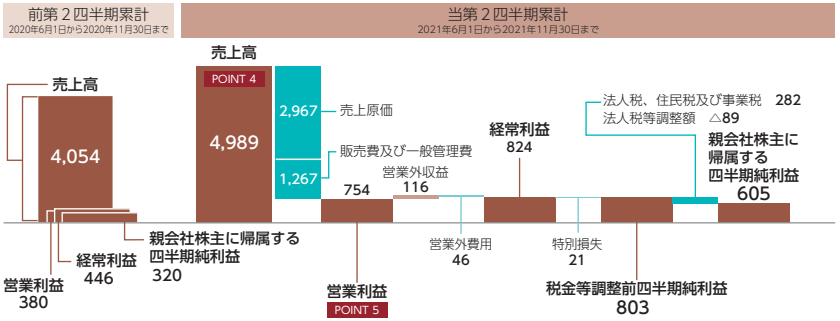
POINT 3

純資産の変動

純資産は、前期末比で3.7％増加しました。また、自己資本比率は79.6％となりました。

連結損益計算書の概要

（単位：百万円）



POINT 4

売上高の動き

売上高は、前年同期比で23.0％の増加となりました。世界各国での経済活動の再開が進み、大学・官公庁及び民間産業分野向けともに需要は堅調に推移しました。国内・アジア地域では、半導体・電子部品向け等が好調に推移し、米国地域の需要は堅調に推移し、欧州地域の需要は回復基調で推移しました。

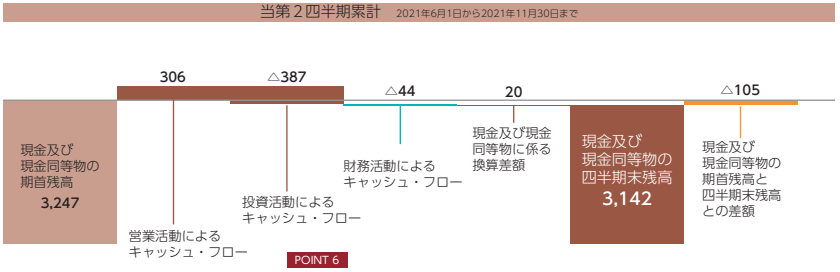
POINT 5

営業利益の動き

営業利益は、賞与支給額、試験研究費等が増加しましたが、増収による利益の増加、売上高の製品構成の変化による材料費率の減少、全社的な経費削減による販管費率の抑制等により前年同期比で98.3％増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要

（単位：百万円）



POINT 6

キャッシュ・フローの状況

営業CFは、売上債権の増加、法人税等の支払等により減少しましたが、税金等調整前四半期純利益、減価償却費等による増加があり、資金を獲得しました。投資CFは、投資有価証券の償還による収入で増加しましたが、短期資金運用のための有価証券の増加による支出、有形固定資産の取得による支出等による減少があり、資金を使用しました。財務CFは、長期借入金の返済による支出、配当金の支払等により減少しましたが、短期及び長期借入による収入等による増加があり、資金を獲得しました。

詳細の情報はこちらもご覧ください。https://www.sigma-koki.com/ir/document/

株式の状況／会社概要

株式の状況（2021年11月30日現在）

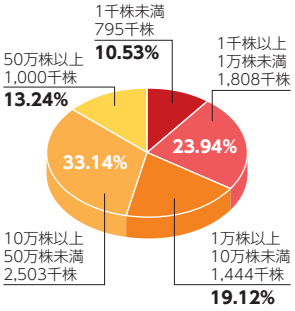
発行可能株式総数	32,000,000株
発行済株式総数	7,552,628株
株主数	4,835名 （前期末比4名減）

主要株主

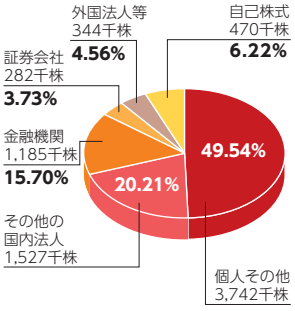
株主名	所有株数（千株）	持株比率（%）
浜松ホトニクス株式会社	1,000	14.11
シグマ光機取引先持株会	432	6.10
株式会社ツシマ	215	3.04
シグマ光機従業員持株会	208	2.94
株式会社埼玉りそな銀行	203	2.86
富国生命保険相互会社	200	2.82
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	161	2.28
株式会社サンライズクリエート	148	2.09
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	143	2.02
杉山　大樹	110	1.56

（注）1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。
3. 持株比率は、自己株式（470,450株）を控除して計算しております。

所有株数別株式分布状況



所有者別株式分布状況



（注）1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。
3. 自己株式（470,450株）を含んでおります。

会社概要（2021年11月30日現在）

社　名	シグマ光機株式会社
本　社	埼玉県日高市下高萩新田17番地2
設　立	1977年（昭和52年）4月
資本金	26億2,334万円
従業員数	356名
役　員	代表取締役社長　近藤洋介 取締役　中村良二 取締役　多幡能徳 取締役　小澤勉 取締役　野﨑誠 常勤監査役　山口秀一 監査役　南雲幸一 監査役　上野健司

（注）1. 小澤勉氏及び野﨑誠氏の2氏は社外取締役であります。
2. 南雲幸一氏及び上野健司氏の2氏は社外監査役であります。
3. 社外取締役 野﨑誠氏及び社外監査役 上野司健氏の2氏は独立役員であります。

主な事業所

- 本社・日高工場
- 東京本社
- 大阪支店
- 九州営業所
- 能登工場
- 技術センター

関連会社

- OptoSigma Corporation
- OptoSigma Europe S.A.S.
- OptoSigma Southeast Asia Pte. Ltd.
- 上海西格瑪光机有限公司
- タックコート株式会社

当社の中間報告書は、「UDフォント」を採用しています

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザイン（UD）書体を使用し、弱視・老眼等視力の低下にお悩みの方にも読みやすいよう配慮をしております。

株主メモ

事業年度	毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会	毎年8月開催
基準日	定時株主総会　毎年5月31日 期末配当金　毎年5月31日 中間配当を行う場合は、毎年11月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
電子公告URL	https://www.sigma-koki.com/

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の【特別口座について】をご確認ください。

株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（郵便物送付先）	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部

（電話照会先）フリーダイヤル 0120-782-031（通話料無料）
（インターネット ホームページURL）
https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、みずほ信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます）を開設しております。左記株主名簿管理人とはご照会先及び住所変更等のお届出先が異なりますのでご留意ください。

〈特別口座に関するご照会先〉

（特別口座　口座管理機関）	みずほ信託銀行株式会社
（郵便物送付先）	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	0120-288-324（通話料無料）

株主の皆様の声をお聞かせください

下記ＵＲＬにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、
アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、
アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます

※なお、抽選は同時期に実施されている他社株主アンケートへの回答者を含めて行われます。

https://www.e-kabunushi.com
アクセスコード 7713
いいかぶ　検索

空メールによりURL自動返信　kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

スマートフォンから
カメラ機能でQRコード読み取り→
QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

本アンケートは、株式会社リンクコーポレイトコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。https://www.link-cc.co.jp

アンケートのお問い合わせ　「e-株主リサーチ事務局」
MAIL：info@e-kabunushi.com

(2201)

シグマ光機株式会社
東京本社　東京都墨田区緑1-19-9
TEL.03-5638-8221（総務部）

UD FONT　FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080　VEGETABLE OIL INK